

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--------------------------|
| A-132 | 20-033 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Korean mothers' alcohol consumption trajectories from childbirth to 6 years postpartum and children's executive function difficulties at first grade 韓国人母親の出産から6年間の飲酒の軌跡と子供の小学1年生時の実行機能困難 | | |
| 執筆者 | | |
| Kim YH. | | |
| 掲載誌 | | |
| Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2020 Apr;55(4):497-506. doi: 10.1007/s00127-019-01804-9. | | |
| キーワード | | PMID |
| 母親の飲酒、産後、実行機能、小学1年生、軌跡 | | 31720729 |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： 韓国人母親の出産から6年間の飲酒状況と子供の小学1年生時の実行機能障害との関連を検討することを目的とした。</p> <p>方法： 対象は全国縦断調査である韓国の子供に関するパネル研究より、世帯を層別多段階サンプリング法で抽出した1,010人の母親とその子供であった。母親のアルコール摂取状況は世界保健機関のアルコール使用障害同定テスト (AUDIT) を用いて、過去1年間の飲酒の頻度と量を成長混合分布モデルにより同定した。子供が小学1年生時に Child-Adolescent Self-reported Executive Function Difficulty Screening Questionnaire を用い、計画・組織化 (11項目)、行動制御 (11項目)、感情制御 (8項目)、注意集中 (10項目) の4スケールの実行機能障害について母親と教師が回答し、要因共分散分析を用いて検討した。</p> <p>結果： 韓国人母親の産後6年間の飲酒パターンは不均一であり、母親のアルコール摂取パターンは、安定した少量飲酒 (49.9%)、飲酒増加 (25.0%)、慢性的な中程度の飲酒 (18.3%)、慢性的な多量飲酒 (6.8%) の4つのパターンであった。教師が評価した子どもの実行機能障害においては、母親が慢性的な多量飲酒の子どもは、他の母親グループの子どもよりも、計画・組織化、行動制御、注意集中の面で困難を示した。</p> <p>結論： アルコール過剰摂取の母親を早期にスクリーニングすることが重要であり、特別な注意とサポートは、その子供の成長と学校の適応に有益である。</p> | | |